

令和7年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

ささやかな助け合いで大きな安心を!!

北海道札幌市中央区 特定非営利活動法人札幌微助人倶楽部

札幌微助人倶楽部^{びすけど}は1996年12月、高齢化と核家族化社会を見据えて、福祉・介護に関心を持つ企業経営者や団体役員、ヘルパー有資格者らが「会員同士で助け合う」目的で結成されました。その後、1998年、特定非営利活動促進法が施行され、「市民が行う自由な社会貢献活動」として非営利活動団体が法人格を取得できるようになり、翌年1999年8月に札幌微助人倶楽部はNPO法人として認証を受けました。会員数は現在897名が在籍し、札幌市内外から幅広い世代が参加しております。設立以来、札幌市を拠点に地域に根ざした多様な支援活動を行う有償ボランティア団体として、公的介護保険サービスの隙間を埋める“ささやかな助け合い”をモットーに、

会員同士が支え合う仕組みを構築してまいりました。孤立を防ぎ、地域コミュニティのつながりを強化するため、地域住民一人ひとりの「小さな助け合い」が大きな力となることを目指して地道に取り組み、今年12月で30年を迎えます。

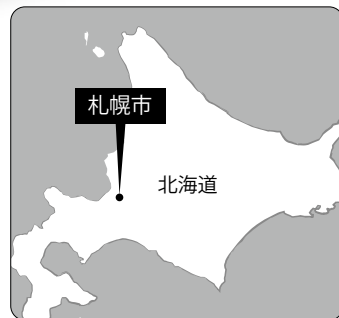
“訪問サービスと移送サービス”による 地域密着の支援活動

主な活動は、掃除、洗濯、片付けなど家事全般の援助を行っています。通院・買い物などの付き添いの身体介助、見守り、安否確認、話し相手、託児・送迎、ベビーシッターの育児支援。パソコンや読み聞かせなどの相談サポート、庭仕事と、日常生活の



訪問サービス・生活支援の家事援助

中で困りごとを抱える方々に寄り添った訪問支援サービスを行ってきました。また冬季における庭の冬囲い、雪による生活困難





車椅子の会員を病院へ送り迎え

が増える高齢者世帯に対して、雪かき支援を積極的に実施。これにより高齢者の転倒事故防止や社会的孤立の解消にも貢献しています。家事援助などは1時間1200円で、サポートした人は事務経費300円を除いて残りを受け取ります。2024年度の活動時間は約4042時間となっています。

さらに地域での共助を実現する有償ボランティアの「移送サービス」を会員の自家用車を用いて提供し、高齢者や身体が不自由な方の日常生活を支えています。料金はタクシーの約半額と手頃なうえ、安心・安全な運行体制も整備されており、ドライバーは料金の20%の事業運営費を除いて、



支えられる人と支える人

残りを受け取る仕組みです。2024年度の活動件数は4018件となっております。会員や利用者の声がたくさん寄せられていますので、一部紹介します。

「私の姉は腎臓が悪く、透析をしていました。私が車で病院への送り迎えをしていましたが、平成20年、私も緑内障などで送迎が出来なくなりました。姉のケアマネジャーに私の代わりに送迎してくれるところがないかと相談したところ、札幌微助人倶楽部を紹介されて姉が入会しました。さっそく病院への送り迎え、食料品購入、掃除、洗濯をお願いすることになりました。その後、私自身も目の手術などで車の運転が出来なくなり、微助人さんに送迎をお願いするこ



移送サービス・ドライバー安全運行講習会

とになり、運転手Sさんや多くの方にお世話になりました。」(利用者Yさん)

「…創立当初の会員もサービスをする側から受ける側へと変わってきていますね。相互扶助の精神に賛同して、募金はできなくても労力の寄付ならできるかな、との思いでお仕事をしています。創立以来、全ての面で大活躍していらした大好きだった事務局の故Oさんに「あなた、頑張ってるわね(笑)」と褒めて貰えるように、これからも会員の皆様のお役に立てるように微力ながら活動していきたいと思います」(提供者Sさん) ※当倶楽部広報紙びすけっとメールから

社会との連携と評価

2006年北海道福祉のまちづくりコンクール奨励賞、2012年道新ボランティア奨励賞、2017年札幌市社会福祉協議会会長表彰、2021年札幌市福祉ボランティア奨励賞、2022年社会貢献支援財団社会貢献者賞、2025年札幌市福祉ボランティア貢献賞を受賞してきました。雑誌・新聞など各種広報媒体にも複数回取り上げられ、注目をいただいております。また2024年3月、初めてのイベント「楽しく話そうびすけっと」、2025年5月には



広報誌パンフレット

セミナー「楽しく学ぼうびすけっと 高齢者の暮らしと安全」と題して開催。内外からたくさんの方が参加されましたので、今後ともセミナーやフォーラムの開催で、役立つ情報の提供を行ってまいります。さらに札幌市在宅福祉活動団体ネットワークや各種市民活動サポートセンターとも協力・連携しております。

試練と展望

「ささやかな助け合い」の取り組みが広がり、会員数が年々増加し1000名を目指しています。介護保険導入後の一時的業績低下やコロナ禍による活動の停滞が影響し



札幌市から福祉ボランティア奨励賞受賞

たこともあって、数年赤字が続いておりますが多くの寄付金や助成金による支援もあり困難を乗り越えることができました。「公的サービスでは対応しきれない細かな支援」の重要性が再評価されてきております。訪問サービスや移送サービスの提供者不足は喫緊の課題でボランティア確保に努めているところです。

今後は、地域ニーズに即した支援基盤の強化を図っていきます。会員数の拡大、訪問・移送サービスの拡充、市民との連携・協働を通じて、さらなる地域福祉の発展を目指し、「ささやかな福祉のネットワーク」を札幌に根付かせていく所存です。

(特定非営利活動法人札幌微助人倶楽部

代表理事 田畑博)



札幌市在宅福祉活動団体ネットワーク「健康まつり」